

2021 年度特定非営利活動法人フードバンク福岡事業報告書

はじめに

特定非営利活動法人フードバンク福岡は 2017 年度より本格的な活動を開始し、食品ロス削減への取り組み、福祉活動の両面で、活動して参りました。12 月には、本部事務所、倉庫の移転を行い、食品取扱量の拡大に対応することで、ご提供いただいた食品を一括納品、集約保管することが可能になりました。また、フードドライブなど、企画していただく流通業の方達、それに参加していただける個人の方々の取り組みも、大きく前進することが出来ました。食品提供については、前年同様コロナの影響でシングルマザーの方等、多くの方から食料の支援要請がきております。2021 年度も多くの方のご支援を受けることができました。下記にて活動内容をご報告させていただきます。

2021 年度活動実績

内容	実績	前年実績	累計	前年比
食品寄贈企業数	39 社	48 社	203 社	81.3%
出荷量	236.7 トン	160 トン	—	147.9%
食品配布先	26 団体	46 団体	194 団体	56.5%
個人郵送	103 名	—	1168 回	—
寄付金	6,202 千円	4,392 千円	—	141.2%
助成金・共働事業	13,495 千円	13,884 千円	—	97.2%
会費	2,126 千円	1,639 千円	—	129.7%
合計	21,823 千円	19,915 千円	—	109.6%

●食品寄贈企業、個人の方からの食品提供

SDGs の取り組みが浸透するなかで、食品企業だけでなく他業種の企業の方より備蓄品を中心とした食品提供の申し込みが増加しています。また、2017 年度よりフード・ドライブを中心として、ご家庭からの食品提供をよびかけております。

フードドライブ実績

	2020 年度	2021 年度	前年比
開催会場数	17	41	241.2%
重量	4,471 Kg	10,201 Kg	228.2%
個人提供（郵送・持込）	6,420Kg	9980Kg	155.5%

●食品支援先への食品提供

福岡市南区鶴田(12 月より城南区友泉亭へ移転)、福岡市東区下原、福岡県久留米市、福岡県古賀市を受取り拠点とした食品の提供を実施、また、篠栗で地域ネットワークづくりの実験展開をおこない、地域団体こころんを中心に、食を中心とした地域の受け取り施設の運用と取り組みの状況把握をおこないました。この取り組みを次年度拡大していきます。食品提供の必要な団体、行政、個人への対応については、行政、社協への生活セットの提供、個人への郵送をおこない、シングルマザー等仕事の影響で食品を必要とする生活困窮者の方など個人を対象とした食品提供の対応を実施いたしました。背景として、コロナの影響もあり、問合せを多数寄せられる状況のなか、助成金の活用を行いながらの対応となっています。

●持続可能なフードバンク運営体制の構築

「寄付金・会員の会費」「支援型自動販売機・寄付付き商品等」「助成金」により運営を行っております。

●事業、配送のインフラ整備

2021年12月より本部・倉庫を城南区友泉亭へ移転、食品保管施設の集中化を図り、施設間の移動をなくすことで、食品の受取・配送体制が拡大、充実致しました。また、効率的な配送整備に向けて、曜日集約や増車など体制の見直しを実施致しました。

●令和3年度福岡市共働事業提案採択事業

食品ロスの削減による循環型社会づくりの推進及び、安定的食品提供量確保のため、事業所から発生する食品ロスを対象にフードバンク活用の啓発を実施することを目的として、福岡市環境局循環型社会推進部事業系ごみ減量推進課と一緒に事業をすすめました。

(食品受取インフラ整備の検証と到達点、アクションプランの作成)

●広報活動について

ホームページのリニューアル、紹介パンフレット、紹介パネル、アクションプラン、ニュースレター、篠栗活動報告書等を作成致しました。また、2022年に入り視察、イベントへの参加要請が増加しました。テレビについては、フードバンクの取り組みとあわせ、SDGs、選挙、福祉に関連しての取材が報道番組を主体として放映されました。また、JENESIS オンラインプログラムとして、ASEAN 各国の学生向け学習会をリモートでの開催を実施。また、ホームページの更新に伴い食品の提供、ボランティアの問い合わせも増加致しました。

●次年度に向けての課題

- (1) 事業規模と内容に応じた人員の確保と、将来に向けた人材育成
- (2) 事業インフラ整備
- (3) 食品寄贈企業の開拓
- (4) 食品支援先の対応
- (5) 持続可能なフードバンク運営体制の構築
- (6) 地域単位での食品ネットワーク構築
- (7) 広報活動の強化